

総合生殖医療センター

1. 概要

当院で産婦人科有井吉太郎部長（当時）の尽力により体外受精などの生殖補助医療（ART）がスタートしたのは1996年である。実務に携わり速やかに東三河初となる出産例に貢献したチームリーダーは名古屋大学医学部附属病院分院より着任した北川武司医師であり、鈴木範子臨床検査技師が現在まで継続して業務に携わっている唯一のスタッフである。1999年4月1日には、ARTなどの専門化された不妊治療を行う不妊センターが設置され、初代部長として菅沼信彦名古屋大学医学部附属病院助教授が着任した。2007年4月1日、不妊センターは装いを新たにし、1つの技術に頼らず健全な妊娠・分娩・生命の誕生をめざして様々な高度の生殖医療を統合的に提供するという意味も含め、総合生殖医療センターとなった。これに伴い、不妊センター2代目部長として2006年3月に名古屋大学医学部附属病院助教授から着任していた安藤寿夫が、初代センター長となり、同年世界初となる全受精卵タイムラプス胚培養導入など施設の充実を図り現在に至っている。

（センター長 安藤 寿夫）